

10

一般社団法人 日本駆け込み寺

□公開日時:平成 24 年 7 月 16 日(月)

□相談年度:平成 23 年度

■30歳を過ぎても働かない、大丈夫でしょうか■

～甘やかされた引きこもり息子～

33歳の男とその母親。30代後半という高齢でできた、待望の息子であったため母親は、大事に、まさに手塩にかけて育てて来たつもりだった。父親は仕事が忙しく、休日以外は家にいることも少なく、自然に、子育ては母親まかせとなっていた。

- 仮名：浜口さん
- 年齢：33歳
- 性別：男性
- 問題：ひきこもり

【ものわりのいい子】

あまり親に手をかけさせない息子だった。学生時代の成績も比較的良かったし、非行に走ることもなく、親に対する目立った反抗期もなかった。周りの人間とはうまくやっていたようだが、あまり自己主張をしない、気の小さいところがあり、思春期を迎えても、女の子と付き合うこともなかった。小さい頃から、いろいろと世話を焼いてきた母親にとっては、まさに「息子は宝物。私の生きがい」であり、「この子は私がいないとダメ」と思っていた。

【お互いに依存してはいけない】

大学を出た息子は、めでたく第1希望だった企業に就職したが、1年と続かなかった。人間関係がうまくいかなかったようで、母親は、息子に「あなたには合わなかったのよ。ゆっくり休んで、また探せばいい」といった。

息子は、自分の部屋にこもるようになった。食事部屋でとるようになった。息子は、家を出ることなく、母親に欲しいものをねだり、母親は、かいがいくそれに応えた。父親も、息子に対して厳しく外に出る事を促すことはなかった。そして、そんな生活が、10年間続いた。

母親は、いつまでたっても働こうとしない息子に対して、さすがに不安になったが、息子が自分のそばにいることに安心感もあった。「この子はこれからどうなるんだろう」、「いつまでもこのままでいいのかしら」。そんなことを考えながらも母親は墜落した日常を変えようとはしなかった。いつの間にか、父親とは何年も口を聞いていなかった。母親は、息子をもう少し強くしたかった。でも、これからも息子のそばにいたいことには変わりはなかった。

【肯定すべき自己を自分で発見させる】

俺はまず息子に問いかけてみた。「お前は どうしたいんや?」息子は黙ったままだ。「この子を強くして欲しいんです」また、母親がしゃしゃり出てくる。「あんたは黙るとき。俺はこの男にきいとんのか。ほら、あんた、どうしたいんか言うてみ。強くなりたいたんか?」息子は黙っている。「そんな乱暴な言い方は止めてください」乱暴な言い方って言われても、こっちは関西弁で普通にしゃべっている。俺は母親を無視して続けた。「自分で何か言わな、なんもこっちはできへんで。俺にできることは手助けだけや。何を助けたらいいのか教えてや」、「だから、この子が社会に出て自立する手助けをしていただきたいんです」

俺は黙ったままの息子を、じっと見つめた。「ちょっと失礼します」沈黙に耐えきれなくなったのか、母親がトイレに立った。俺は、2人つきりになったこのチャンスを逃さなかった。「今度、1人できいや。勿論、金なんか持たんでええから」息子が初めて顔を上げる。すかさず俺は、100万ドルの微笑を彼に投げかけた。名付けて、ニコニコフラッシュ! 息子はしばらく私の顔に見入った後、再びうつむいた。やがて母親が戻ってきて、この親子は何も解決せずに帰っていった。母親はぷりぷり怒っていたが、俺には確信があった。そして、俺の確信どおり息子は数日後に再び駆け込み寺に現れた。こうなれば話しは早い。俺は息子の希望を聞き、働く場所や働き方などをレクチャーし、1人暮らしをしたいという希望に、どういう手順を踏めばいいのか教えた。働くのに職種なんかなんでもいいのだ。人間は、働くようにできている。大人になって働かないでいると必ずどこかにひずみが生まれる。でもそんなひずみは一生懸命働けばすぐよくなるものだ。



河北新報 7月5日発売(朝刊)
に大々的に取り上げられた
(日本駆け込み寺仙台支部)

【ここが POINT】

これは、親離れ・子離れができていない典型的なパターン。家庭という閉鎖的な世界の王様と王子様・お姫様で、広い外の世界と繋がりがらない。自己を正当化して、広い世界を認めがらない。将来に無限の可能性のある子どもは、こんな親の過剰な庇護の元で未来を摘み取られてしまっは堪ったもんじゃない。親は自分がいなければ子どもはだめだと思ひ込み、子どもはそんな親をずるずると利用し続ける。年を食っている分だけ悪いのは子離れできない親の方だろうが、もちろん子どもの方だって問題はある。

彼は、俺の薦めで父親と会話するようになり、その父の紹介した仕事で金を貯めて、やがて都内、で1人暮らしをはじめた。そして、ついこの間は彼女ができたと報告があった。

普通でいい。普通に働き、普通に生きて、普通に泣いて、普通に笑う。普通であることは全然悪いことでないのだ。